

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	建築手法・技術小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築教育委員会	
設置期間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	教育カリキュラム、教育技術、教育制度など、建築教育の基本的な課題・問題について、幅広い観点から、調査研究を行う。 2015 年度：多角的に課題を探り、情報共有化を行う 2016 年度：事例収集、課題にたいする対応策の検討 2017 年度：最終とりまとめ	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：	
	主査：阿部浩和 (大阪大学) 澤田 英行 (芝浦工業大学) 浦江 真人 (東洋大学) 田村 雅紀 (工学院大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	B I M設計教育WG 建築技術・技能WG 材料教育WG	
2015 年度予算	240,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/edu/s0/

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	・ 建築設計技術者教育・育成シンポジウム 参加者数 56 名 (資料名) 建築設計技術者教育・育成シンポジウム資料
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. 建築教育シンポジウムを開催し広く建築教育に関する研究成果を発表した。 2. 建築設計技術者教育・育成シンポジウムを開催し建築設計に関わる人材の教育・育成の現状と今後のあり方をテーマにその成果を発表した。 これらは当委員会の対外的意見表明である。
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 建築教育の分野ごとに、WG を組織し、WG を主体として、建築教育の問題点を検討するとともに分野間の情報共有を行い、大学連携、産学連携など実施可能な試みを探ることができた。 2. 建築設計技術者教育・育成シンポジウム及び第 15 回建築教育シンポジウムを開催し、建築教育に関する研究論文としての成果がえられた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 委員・WG の数は十分とはいえず、分野の偏りがあり特定分野の活動にとどまった。 2. 国際化に対応するための教育手法を検討する必要がある。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。